

連載企画 SDGs取り組み事例紹介

株式会社中越興業

～働きやすい環境づくりが地域社会への貢献に繋がる～



【会社概要】

1954年（昭和29年）創業。新潟県長岡市に本社を置き、土木、建築をはじめ地域に密着した建設業として、公共工事、民間工事を問わず幅広く信頼を集め展開している。

品質・技術の向上、および環境との調和を図り、地域社会に良い貢献をすることが、結果として社員の幸せに繋がるという理念のもとで、SDGs以前から人材育成の面でOJTを重視した話しやすい職場づくりや、ワーク・ライフバランスの取れた環境整備に注力するなど、社員を大切にする社風である。

【話し手】

(株)中越興業 代表取締役社長 細川 一彦

——SDGsの取り組みをはじめたきっかけについてお聞かせ下さい。

新潟県土木部により2021年に創設された「新潟県SDGs推進建設企業登録制度*」の募集に当社も参画し、企業登録をしたのがきっかけでした。それまでの様々な取り組みを改めてSDGsの17の目標に当てはめて見直し、SDGs宣言として目標が明確化することができました。宣言は主に、「環境」「社会」「経済」の三つの側面から構成し、それぞれ2030年に向けた具体的な数値目標を立て取り組んでおりまして、進捗状況は毎年新潟県に報告の上、ホームページで

公表しています。

取り組みのうち、技術・知識の伝承を図る取り組みについては、社員各自でナレッジをストックして経験値を上げる努力をするとともに、定年退職を迎えた社員を積極的に再雇用して、後継にメンタリングしてもらえるようにしています。また、2022年から県の施策で始まった「Made in 新潟**」という制度があって県内の企業が開発した土木、建築分野の新技术が採用された事例の情報提供が行われていますので、管路更生工法についても見識を広めるため活用しています。



新潟県SDGs推進
建設企業登録制度



Made in 新潟
新技術普及・活用制度

❖*新潟県SDGs推進建設企業登録制度とは❖

SDGs達成に向けた取り組みを行っている建設企業を登録し、登録企業の公表を通じてその取り組みを県ホームページで情報発信する制度です。企業が自らの活動とSDGsのつながりを認識し、SDGsの達成に向けた取組を率先して進め、人材確保・イメージ向上等に取り組むことを、県として広く情報発信することにより後押しすることを目的としています。

❖**Made in 新潟とは❖

県内の企業が開発した土木、港湾及び建築分野の新技术を新潟県が募集し、新潟県が発注する工事に使用した結果を含めて広く情報提供を行う制度です。新技术の普及・活用を促進することで、建設関連産業の活性化を目的としています。

——管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えてください。

管路更生工法が環境に対して貢献していると言えるのは、まず、開削工事と比べて道路占有面積が狭いため地域住民の日常生活やビジネス活動への支障を最小限に抑えられるということです。

また、道路を掘削しないので建設廃棄物はほとんど無く、開削工事と比べて工期も短縮される等の要因でCO₂の排出量も大幅に削減されます（⑬気候変動に具体的な対策を）。



〈施工している様子〉



〈開削工事の建設廃棄物〉



〈管路更生工事の現場風景〉

そして、振動騒音が小さい点は、施工現場の周辺対策としては極めて重要な特長です。住宅地や夜間での施工はもとより、昼間でも（夜間勤務の人が）寝ている場合があるなど、十分な配慮が必要なので、

施工者間での会話は小声で行い、騒音計で規定のデシベル以下であることを確認しながら作業することで周辺住民との信頼関係を築けるように取り組んでいるのです（⑭つくる責任つかう責任）。



〈防音対策の様子〉



〈デジタル騒音計〉

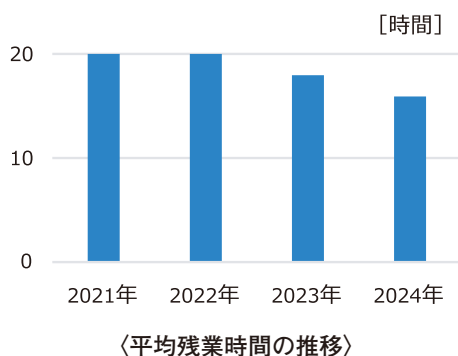
施工現場までの移動手段は、なるべく公共交通機関や自転車を使い、車で移動する場合には乗り合い

で行くよう環境に配慮にしています。

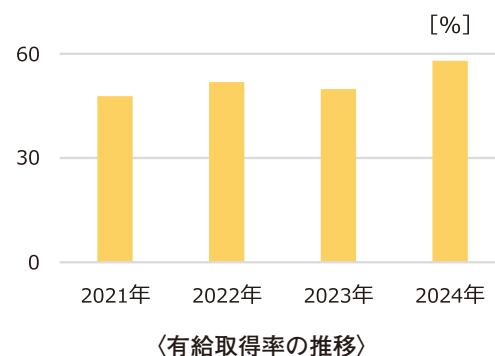
——SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当社では「いい仕事 未来へ。自然と共存し、「明日」を創る」をキャッチコピーにしています。社員が幸せな環境で働いているという事は良いモノづくりが出来る、つまり当社が作っている建物や管路更生工事などの社会インフラ施設の品質が向上することに繋がり、結果として地域に暮らす人々の生活に還元できるという考えです。

従って、社員の働きやすい環境作りには特に力を



入れて取り組んでおりまして、所謂バックオフィスの活用により残業を減らすとともに有給取得率を高め、男性による積極的な育休も促しています。また、施工現場では喫煙ハウスを設置している他、社屋でも分煙化を進めましたので、今では事務所内で灰皿は見なくなりました。一方で、女性にも技術者として活躍してもらっていますので、施工現場での女性専用のトイレや更衣室を整備しています（⑤ジェンダー平等を実現しよう）。



休暇取得や設備の面だけでなく、産業医による1回/年の健康診断に加えて、専門のカウンセラーにいつでもメンタル面の相談ができる体制を整えてい

ます。カウンセラーに相談するのは敷居が高いという人は、もちろん直接我々に言ってもらえるケースもあります（③すべての人に健康と福祉を）。



〈女性の技術者〉



〈カウンセリングの様子〉

地域貢献活動として、長岡花火大会の後片付けに毎年参加しています。また、地域の他のお祭りにも顔を出して各種の手伝いをさせて頂いております。

それから国交省による河川改修時には、子供たちの稚魚放流イベントの設営作業などを担っています（⑰パートナーシップで目標を達成しよう）。



〈長岡花火大会〉



〈後片付けの様子〉



〈稚魚放流イベント〉

——貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

SDGsの17の目標はいずれも素晴らしい理念だと
予てより賛同していました。2030年にはSDGsに取り
組むのが当然という認識で働いている会社になっ
ている姿が必要であり理想です。そして、いよいよ
今年度から新潟県でも、SDGsの取り組みが経審（経
営審査事項）に反映されると聞いていますので、具
体的にビジネスの面で影響が出てくるフェーズになっ

てきたと感じています。会社として利益を上げてい
くためには、案件を受注して、発注者も我々も納得
のできる仕事をして社会に貢献せねばなりません。

地域社会へ貢献するに当たり、業務においては品
質や技術の向上および環境との調和を図る人材育成
のため、OJTを重視した話し合い職場づくりやワー
ク・ライフバランスの取れた環境整備に注力するな
ど、社風である「社員を大切にすること」を推進し
てまいります。



いい仕事、未来へ。
株式会社 中越興業

株式会社中越興業 SDGs宣言

当社は「人と自然の幸福を追求する」という経営理念のもと、
国連が提唱する持続可能な開発目標「SDGs」の精神を自社の企業活動に取り入れ、
社会課題の解決による豊かな未来の実現に貢献してまいります。

2021年12月17日
株式会社 中越興業
代表取締役社長 細川恭一

SDGsの達成に向けた取組

品質・技術力の向上

最高の技術とサービスの提供を通じて、顧客満足向上に努めます。
常に向上心を持ち、より一層の品質・技術力の向上に取り組んでまいります。

【主な取り組み】

- 品質マネジメントシステム（ISO9001）の構築、整備 ・ ICT建機の活用
- 資格取得支援や学習機会の積極的な提供 ・ 現場の労働環境の安全 ・ 衛生パトロール実施



全社員の幸福の実現

全社員が健康で生き生きと働ける快適な職場づくりを実践するとともに、多様性を尊重した職場環境を確立し、社員とその家族が幸せに暮らせるよう取り組んでまいります。

【主な取り組み】

- 感染症対策への取組 ・ 安全運転の励行 ・ 定期健康診断の実施 ・ 産休育休制度の利用推進
- ハラスメントの就業規則への明記 ・ 再雇用制度の活用 ・ 定期的な安全教育の実施



環境との調和

事業活動を通じて、省エネ・省資源・リサイクルを実践することで、環境負荷の低減に努めます。環境に配慮した施工を行い、環境と調和した持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

【主な取り組み】

- 省エネの推進（排ガス対策型建機の使用、社有車の環境負荷低減車への転換等） ・ 生態系保全に配慮した工事推進
- 工事現場で発生した再利用可能資源のリサイクル推進



地域社会への貢献

地域に密着した企業としてこれからもまちづくりや教育環境整備の活動、災害対応、地元人材の積極採用により持続可能な地域社会へ貢献してまいります。

【主な取り組み】

- 地域イベントへの協賛・地元人材の積極採用 ・ 自然災害への対応（災害復旧工事等）
- 激甚化、頻発化する災害に対する対応能力向上 ・ 除雪作業による貢献



SDGsとは



「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月に国連で採択された2030年までに達成すべき国際目標です。「誰一人取り残さない」をスローガンに、貧困、気候変動、人種、性差別、働き方などの社会が抱える様々な問題を解決し、世界全体で明るい未来を目指すための17のゴールと169のターゲットで構成されています。



〈SDGs宣言〉

